

## 災害ボランティア活動報告 (No.41)

**活動場所: 宮城県亶理郡山元町作田山 (被災農家: 斎藤様の農地)**

**活動内容:**今回は、総勢 42 名です、バス 41 名。当団体の副理事森本（マリーンズの四街道後援会事務局長）の関係で宮城のマリーンズサポーターの方がお一人手伝いに来て頂きました。今回は、2 班に分かれて頂きました。男性陣は枯れたナス畑の片付けに行き、女性とお子さんは、お米の苗床のビニールハウスでの雑草取りと後片付けを行いました。

**参加者:**メンバー（木下史典、森本次郎、広瀬義積、溝手文子、本田 健）、一般参加、ネット参加のバス 41 名。宮城のマリーンズサポーターの方 1 名。（合計 42 名）

**活動報告:**『親子で震災ボランティア体験』in 宮城県山元町、ボランティアバス第 18 弾です。被災農家斎藤さんにご縁があり伺いしてから、今回で 14 回目です。

前回は、セブンイレブンの社員の方の飛び入り参加がありましたが。同じセブンイレブンのコンビニで、朝、飲み物などの買い物に寄った際。地元のイトウさんという方から参加者と運転手の 43 名分の飲み物の差し入れを頂きました。コンビニに寄った際、『ボランティアさんか。』と話しかけられ、そうですと答えると、『私も被災者で、遠いところからボランティアに来て頂き、有り難う。』と缶コーヒーやジュースの差し入れを頂きました。こちらこそ、有り難うございます。被災地の皆さんに歓迎されているのがよく分かります。東北の方々は本当に暖かいと感じます。斎藤さんもそうですが、気を遣って頂いているのがよく分かります。感謝感激です。

ボランティアセンターから派遣されたボランティアですと、被災者の方と接点がない場合が多く分からないのですが。直接被災者の方の所に伺っているからこそ、そのお気持ちがよく分かります。だからこそ、もっともっとお役に立ちたいと思います。

農作業の方は、男性陣はナス畑の片付けです。腰ぐらいの背丈のナスの収穫後の枯れ草、と言うか枯れ木です。それを 2,000 本ぐらい引き抜き、黒いビニールが張ってあるのですが、それを剥がします。キツイ仕事ですが男性陣 12 人で作業して頂き、午前中で終わりました。さすが仕事が早いです。

女性の方々とお子さんは、お米の苗床のビニールハウスでの後片付け作業です。

枯れた苗床を片づけます。イチゴ農家の鈴木さんのビニールハウスです、お話を伺うと、病気で駄目になった苗を処分して、雑草も生えているので、雑草取りもしました。

前回、モロッコインゲンの収穫後の後片付けをしたビニールハウスでは、ちじみほうれん草が豊かに成っていました。ここも、また別の野菜が育つのかと思うと感慨深いものがあります。ちじみほうれん草は斎藤さんから、参加者全員におみあげで頂きました。ほうれ

ん草と同じ調理で食べられます。ほうれん草より味わい深いというか、青汁の様に濃厚です。自分達が綺麗に後片付けしたビニールハウスで出来た野菜を食べると、生き物が育って、それを頂くことで生かされていると実感します。自然と自然に感謝している自分がいます。継続してボランティアをしているからこそ味わえる感覚ですね。

**行程:**総勢41名で、12月26日金曜日の夜に、千葉県四街道駅発で、西船橋駅、錦糸町錦糸公園経由で現地山元町へ向かいました。

12月27日土曜日、朝食をいつも吉野家で頂いていたのですが、今回は国見SAで各自で朝食を取って頂きました。交通費の値上げが有り。費用面と時間の問題で各自になりました。そして、被災したままになって遺構として残されている中浜小学校を視察後、作業場へ



今回の『第18回：親子で震災ボランティア体験』に参加された皆様。集合写真。



男性陣の方は、ナス畑の後片付け。女性とお子さんは、お米の苗床ハウスの後片付け。



男性陣:2,000 本位有ったナスの枯れ木が綺麗に。女性陣の方もこんなに綺麗に。



男の子は、枯れた苗床を運んでくれました。女の子は、雑草を片付けてくれました。お子さん達には、被災地でボランティアをやった良い思い出になった事でしょう。有り難う。



遺構となっている中浜小学校。

クリスマスの時期ですので、森本理事から、お世話になった鈴木さんにプレゼント。もちろん斎藤さんにも。今回も、見ず知らずの被災者の方から差し入れを頂き。感謝感激です、感動を有り難うございました。

以上